

## 第8回国土交通省成長戦略会議

平成22年2月5日

【中原政策官】 それでは、皆さんおそろいですので、ただいまより、第8回国土交通省成長戦略会議を開催させていただきたいと思います。

皆様方、大変お忙しいところありがとうございます。前回と非常に近い日程で、お忙しいところ何度もお集まりいただきましてありがとうございます。

大臣は、きょうは閣議と閣僚会議がありまして、省に戻って記者会見を30分ほど行ってからこちらに参ります。先に始めておいてくださいということでしたので、早速座長、よろしく願いいたします。

【長谷川座長】 それでは、時間も限られておりますので、早速開始させていただきたいと思います。本日は、前回に引き続きまして、各分野の論点整理を行いたいと存じます。まず、海洋分野の論点整理について20分程度で発表をいただき、それに対する質疑を30分程度行いたいと思います。その後、航空分野の論点についても同様に行いたいと存じます。また、本日は、成長戦略の総論・基本思想について、柳川委員と御立委員にご検討いただきましたので、これについてもプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンは15分程度、その後、フリーディスカッションを25分程度行いたいと考えております。なお、前回も申し上げましたが、各分野の論点整理の資料はこの会議内限り、非公表とし、その概要及び主なご意見については、私のほうから会議後の記者ブリーフィングにおいて説明させていただくことといたします。

なお、本日は、大江委員、平田委員、星野委員は所用により欠席ということでありまして、それから、大上委員、中条委員におかれましては、8時前後にご退席の予定でございますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

それでは、まず、海洋分野の論点整理につきまして、柳川委員からよろしく願いいたします。

～ 以下、海洋分野の中間論点整理 概要 ～

【柳川委員からの発表】

- 海洋インフラの大幅な効率化・高度化・サービス向上により、アジアの成長を取り込み、日本と世界全体の成長に寄与する。
- グローバル化と新興国の経済成長により、物流の世界的増大が見込まれる。海洋ネットワークはその物流の根幹であり、効率化・サービス向上によって
  - ・ 物流の利便性を大幅に高め、我が国全体の経済成長を促進させる
  - ・ 海洋ネットワークの充実を我が国がリードし、世界経済に貢献することが重要。
- そのために、主に
  - ・ 港湾の選択と集中
  - ・ 国際競争の妨げになる規制や制度の見直し
  - ・ 電子化や観光産業との連携等の「新結合」が可能になる仕組みづくり
 を大胆に行い、民間企業が、自由で革新的な活動ができるよう、環境を整備する。
- それによって、
  - ・ 利便性の高い世界のハブ港湾を有し、世界的な物流拠点となる日本
  - ・ 低コスト・高品質の海洋インフラ（内航・造船等の海事産業クラスターを含む）により、グローバルな取引量を増大させ、世界の成長を取り込み促進させる日本
  - ・ 世界的な海洋ネットワークをリードし、その充実発展に寄与する日本を目指す。

**【発表に対する委員からの主なコメント】**

- 海運について、寡占化が進んでいる海外大手と争ってシェアをとりに行くという基本戦略があるのか、それとも今のシェアを、15%から11%ぐらいに落ちたのを何とか維持したいという基本戦略なのかを考えるべき。
- 造船について、国策的に集約化することによって、競争力の強化と大型投資ができる力をつけることを検討すべき。
- 港湾について、大型化に対応した港湾インフラや、それぞれバラ積み船やコンテナ船の種類によって、具体的な選択と集中の中身をこれからの実際の具体的戦略の中で肉付けをすべき。
- 国家安全保障の観点を書き入れるべき。

～ 以 上 ～

【長谷川座長】 大体そんなところでよろしゅうございますか。

それでは、海洋分科会の論点整理については、これをもちまして、本日のところは議論を終了させていただきまして、次に移りたいと思いますが……。先に総論をやりましょうか。

【中原政策官】 総論をお願いします。

【長谷川座長】 では、急遽順番を変えまして、お願いいたします。

～ 以下、総論の中間論点整理 概要 ～

【柳川委員・御立委員からの発表】

- 基本的な立ち位置として、人口減少、少子高齢化、長期債務残高の増大という3つの大きな不安の中で、量産型・分散から選択と集中、中央集権から地方分権、ガバナンス体制の構築等のパラダイムシフトが必要。
- 成長戦略の枠組みとしては、①観光立国や住宅・不動産投資の拡大等による内需の拡大、②海洋立国やオープンスカイ、建設・運輸産業の海外展開等による国際展開、③民間資金や退出メカニズムを含む市場機能の活用、規制の見直し、人材育成等による財政に頼らない成長の3点に集約できる。
- 成長戦略実現への道筋として、ロードマップの作成、政策効果の明示、PDCAの徹底等により、政策の優先順位・ビジョンを提示することが必要。

【発表に対する委員からの主なコメント】

- 経済成長ばかりでなく、経済的な安全保障やセキュリティ、テロ対策といった視点も必要。
- ICT等の科学技術の著しい発展や、環境問題の深刻化など前提条件が変化していることも踏まえるべき。
- サービス分野の生産性の向上も大切。インフラもサービスの提供という視点で考えるべき。

- 前提として、もう少し危機感を打ち出していくべき。
- 失敗することもあり得べしと考えて実験を行いながら進めていく必要がある。
- 「成長戦略」の最終レポートは、国内だけでなく世界へ発信することが必要。民間企業の中期経営計画のようなものであり、理念や具体的な目標があって、マイルストーンとなる数字を盛り込んで、それにしっかりとコミットメントすべき。

～ 以 上 ～

【長谷川座長】 どうもありがとうございました。

総論に対する論議はこれで打ち切りにしたいと思います。現時点では各論をきちっとまとめた段階で振り返るほうが、より生産的だろうと思います。

本日のところは、この総論の論議はこれで終了にしまして、大臣もお越しいただきましたことでもありますし、注目的でもあります航空部会についての論議に移りたいと思います。それでは、航空分野の論点整理に関しまして、分科会座長の御立さんから、20分か25分ぐらいでお願いいたします。

～ 以下、航空分野の中間論点整理 概要 ～

【御立委員からの発表】

- 高度成長を前提とし「国内各地に空港を作り、路線網を拡げる」ことに主眼を置いてきたこれまでの航空政策のパラダイムを転換し、低成長時代に相応しい、「既存インフラを徹底的に、かつ、効率的に使う」パラダイムにシフトさせる政策パッケージが必要。
- これにより、我が国を中心とした国際航空ネットワークの拡充強化、必要な国内航空ネットワークの維持確保、我が国航空会社の国際競争力の強化を実現し、グローバルな都市間競争への対応、インバウンド観光需要の取り込み、利用者にとっての交通輸送コストの低減等を通じて、我が国の成長に資することを目的とする。
- このような観点から、航空分野では以下の6つを中間的な論点として整理。

・ 首都圏空港の容量拡大とフル活用

- 羽田の充実した国内線ネットワークを活用し、内際ハブ化を達成。

- 成田の充実した国際線ネットワークの更なる拡充に加え、国内フィーダー路線の拡充、ビジネスジェット運航の容易化。
- ・ 関西空港のバランスシート改善と関空・伊丹の一層の活用
  - 関空の巨額な負債を、政策として大幅に減少させる方策を検討。
  - 関空の強みを活かす戦略、都市近接型空港としての伊丹の活用策を検討。
- ・ 公租公課と空港整備勘定のあり方見直し
  - 「空港整備の無駄を廃し、真に必要なものに注力する」観点から、新たな空港整備の可否につき、厳しく精査する仕組みを指向。
- ・ 空港経営効率化のためのガバナンス構築
  - 空港整備・運営主体及び空港ビル会社等の空港関連企業を含めて、空港全体の経営の効率化が進むようなガバナンスの仕組みを構築。
- ・ 航空ネットワーク維持政策の見直し
  - 「路線参入・撤退の自由」を明確な行政方針とし、その方向で改正された航空法の趣旨に基づいた運用を実施。
  - 不採算路線の維持については、地域が主体的な役割を果たすべき。
- ・ LCCの参入促進等、低運賃メリットの拡大
  - LCCが参入しやすい環境を作るため、①LCC専用ターミナル建設、②航空交渉やスロット配分におけるLCC参入への積極的取り組み、③国内LCC企業の参入障壁となりえる規制の緩和等を検討。

**【発表に対する委員からの主なコメント】**

- LCCを特別扱いするのでなく、他の事業者も同等に公平に扱うべき。
- ただちに空港の民営化に取り組むべき。
- 民営化を行う前提は、失敗したときに政府が助けられないこと。競争を確保することが重要。
- 民営化を成功させるには、政策の予測可能性、透明性が担保される必要がある。
- 成功している国、他国の事例等を学ぶことが重要。
- 検討結果を確実に実行できるようにするのが不可欠。

～ 以 上 ～

【長谷川座長】 大分実のあるディスカッションをしていただきまして大変ありがとうございました。最後に、前原大臣のほうからごあいさつをちょうだいしたいと存じます。

【前原大臣】 大変お忙しい、また重要な役割をされている皆さん方に、こうやって今週2回目ですね、お集まりをいただきましてまことにありがとうございました。また、この本会議だけではなくて、分科会等でいろいろとお知恵をいただいていることを、改めて心から御礼を申し上げたいと思っております。

きょうの議論を伺ってしまして、私はちょっと後半だけで申しわけなかったんですが、同じ懸念、心配をしています。つまり、いい案をまとめてもらって、それがほんとうに実行し続けられるのかということ。それに私は、一番大きなポイントを置かなきゃいけないと思っています。我々政務三役も、いつまでいるかわかりません。政権が変わらなくたって、内閣改造ということもあるかもしれません。それから、役所の中でも定期的に人事異動があるわけですね。そういう中であって、しかし根本を貫くようなものをしっかりとここでつくっておいて、もちろんそれは政権が変わったりしても、大きな流れの中ではこの方向性は不可逆なんだというものをしっかりと植え付けることが大事なことはないかなと思いますし、なおさら皆さん方のようなすばらしい方々に集まっていたいでいるので、いいものができるかと確信をしておりますけれども、あとはそれをどう実行していくかという政治の意思だと思います。

あとは皆さん方にまたお願いをしたいのは、やっぱりスケジューリングですよ。どういうスケジュールでやっていくかという、プラン・ドゥ・チェック・アクションの話がどこかでありましたね。これが大事なことはないかなと思いますので、工程表までしっかりとこの会議で作り込み、そして以前お願いしたように、案をつくってこの会議は終わりではなくて、そのプラン・ドゥ・チェック・アクションのチェック、アクション、こういったところまでお力添えをいただく中で、ぜひ不退転の決意でまとめていただいたものをやり抜くということで、我々も努力をしたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

【長谷川座長】 どうもありがとうございました。

— 了 —